

# シエムリアップ MoiMoiライフ

ISSUE  
86

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



小出陽子 (Yoko KOIDE)  
1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シエムリアップにレストラン Cafe Moi Moi をオープンする。同年 JST (NGO; アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構) を設立し、農村地域の支援活動を始め。2013年「アンコールの都の西北」に公立のバイヨン中学校を創設し、運営を行っている。  
JST ホームページ <http://www.jst-cambodia.net>

## MoiMoi Life in Siem Reap

### Angkor Wat at Night

Angkor Wat changes between day and night.

Once evening falls, the guardsmen go through the ruins, clearing out sightseers. I was surprised how much it changes at nightfall.

Many monkeys climb up the ruins to survey the woods. Bats come flying into the ruins and forest.

Another time, while walking, I was surprised by a growl. Then I saw it was a cobra! I ran from there as fast as possible. The image of that cobra, and the sound it made, left me feeling as if I saw a snake with many heads. Surely it was the same as Naga on the temple banister.

Then I understood. Angkor Wat was a dwelling for animals before becoming a sightseeing place. Humans see only what the light touches. At midnight, a feast unfolds accompanied by spirits.

## 真夜中のアンコール・ワット

アンコール・ワットほど昼と夜とで趣が変わる場所はないのではないでしょうが。いや、「趣」といった穏やかな表現ではなく、「世界」と言っただ方が適切かもしれません。

現在、アンコールの各遺跡では夕方の定時になると遺跡監視員が敷地内を回りはじめ、観光客は退出しなければなりません。そんなとき、後ろ髪を引かれる思いでアンコール・ワットを見上げると、夜の帳が下りはじめた瞬間から、異次元とでもいえる世界に向かって刻々と変化していくその姿に驚きを禁じ得ないときがあります。

まず、どこからともなくやってきた沢山の猿たちがアンコール・ワットの上に登り始めます。そして、祠堂の上、回廊の屋根の上などから、アンコール・ワットを、いや世界を征服したようなドヤ顔で周囲の森を見わたしています。南方からはコウモリたちが飛来し、あるものは回廊の中へ、あるものは周囲の森へと静

かに消えていきます。

また、脇の小道を歩いていたときのこと。突然の「ガオオオオオ」という唸り声に驚き、そちらに目を向けると、側溝から何ものかが強烈なオーラを放ちながら威嚇している姿が目飛び込んできました。それはなんと、コブラでした!! 腰を抜かしそうになるほど驚き、一目散でその場から離れましたが、私の脳裏に焼き付けられたコブラの姿は、その威嚇音と相まって、何本もの広がつた姿、まさにアンコールの寺院の欄干に置かれているナーガの彫像そのものでした。

そして私は悟ったのです。たくさんのお観光客が訪れるようになる前は、アンコール・ワットは彼らあらゆる生き物たちの棲家だったのだと。今でも人間が見ている世界は光のあたった半分ではないということ。真夜中、アンコール・ワットでは、精霊たちも加わって、賑やかな饗宴が繰り広げられているに違いありません。